

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

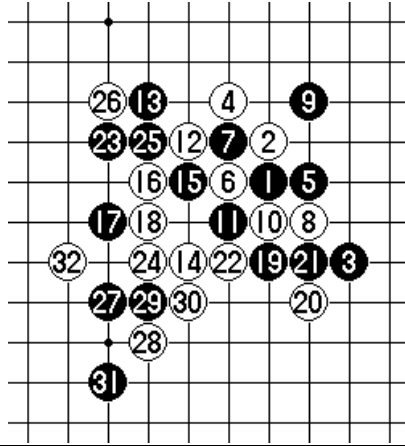
● 第97回 ●

■ 名人戦予選振り返り

今期は運よく1次戦、2次戦を全勝で通過することができた。負けのあった局もあり、反省点もあるのだが、まずはホツとしている。関西のもうひと枠で、常連の長谷川九段が落ちるかもしれないという状況なので、余計に身が引き締まる思いである。

それでは、1次戦、2次戦の中から、印象に残った局を振り返ってみたい。まずは1次戦1回戦、香山さんとの対局である。とにかく初戦は勝っておきたい。仮先となったので、「遊星」を指定した。昨年は遊星をかなり研究して臨んだつもりだったが、いい結果が得られなかった。1年たち、少しずつ遊星が馴染ん

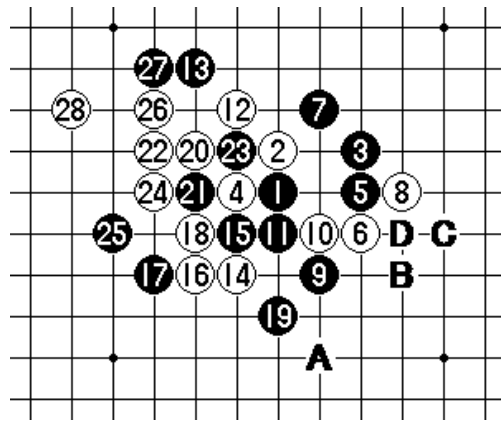
できているのがわかるので、飽きるまではしばらくは遊星を続けたいと思っている。では、局面に移ろう。



遊星は独特の形が多いので、白4をどこに打つかで局面ががらっと変わってくる。白4は最近また研究していたので、ある程度自信を持って臨んだ。

しかし、さっそく黒9ではずされた。この手は当然考えられる手で、対して少し研究はしていたものの、実際に打つとなると案外難しい。やはり実戦を打たないと、急所が身についてこ

ない。続いて、2連勝同士で迎えた長谷川戦。



この相手には今後も対戦が予想されるので、できるだけ勝っておきたいところだ。ただ、負けたいとしても挽回のチャンスはある。

遊星は後に取っておくとして？気分転換に残月を指定した。すると白4を打たれた。この相手だとほぼ私が白を打つ展開になるのだが、満局定石はさすがに避け、珠王戦で中村名人が打

った白6を真似てみた。しかし、付け焼刃とはよく言ったもので、黒11に白12は錯覚だった。珠王戦の飯尾Vs中村戦では、黒11はDであった。

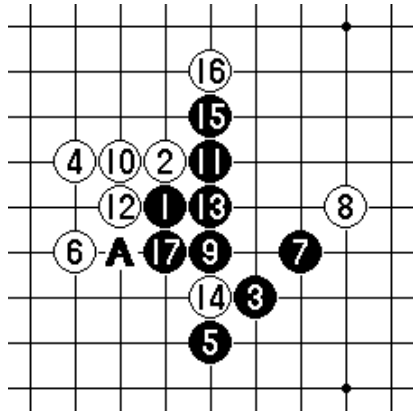
ところが、である。長谷川氏も何かある、と思ったのがここで長考。あれ？と思っていたら、何と黒13！の外止め。実際には、黒13を中止めで黒勝ちだったようだ。しかしこれは、相当研究していないと勝ちきれない。

さて、局面に戻り、白14は当然だろうが、黒15は13を生かして上辺に打たれるのを恐れていた。長谷川氏は全く気が付いていなかったように、黒15と防ぎに来てくれるなら白は満足だ。黒17が決定的な悪手で、白18で黒は困っている。次にABC Dがあるので黒は19か24だが、24だと20、23で三々禁である。黒19はやむを得ないが、

白20からうまく引けるので、白勝ちが動かない。白28以下、四追いで四々禁となる。

続いて2次戦の譜を紹介しよう。

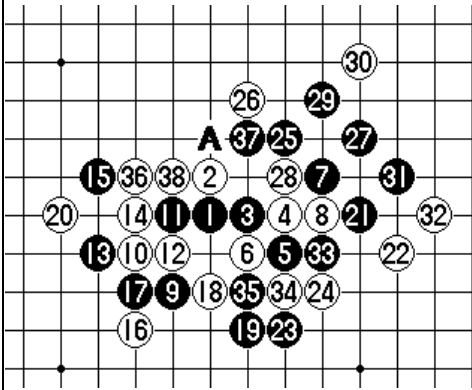
まずは1回戦、柏原さんと。柏原さんのツイッター上に掲載されている四追いを解くのを楽しみにしており、対戦も楽しみのの方が大きかった。



最初はやはり遊星を指定した。白4も打たせてくれたので、連珠世界にまだ掲載されていない白4を打った。黒を持たされたが、こ

の5を残されて一安心。この手は事前に勝ちを確認していた。白6は12の方が強防だが、それでも黒勝ちがある。白は黒5で5、7、9、11以外の手を選ぶ必要がある。珠王戦の丸田浩Vs飯尾戦で、黒5でAと打っており、そんな手もあるのかと思つた次第である。

続いて2回戦。私は予選最上位なので、2勝すれば確実に通過できる。もし本局に負けると、最終局が長谷川戦なので、通過が危うくなる。

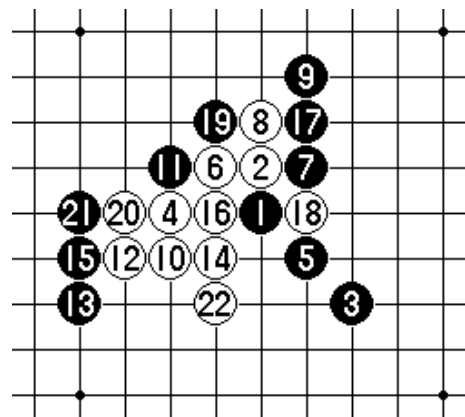


雨月を打たれたので、白4と八題を指定。舘君は黒が好きなようだ。1回戦では長谷川氏に対し黒で快勝している。

この形は混戦だが、黒9から目一杯攻められた。白16、18は工夫した防ぎだったのだが、黒19が当然ながら忙しい手で、これで白は忙しくなった。

続いての黒21もいい手だった。白20の石を生かして左辺で攻めたいが、どうも少し足りない。こういう時は我慢の一手で、白22と辛抱した。とにかく黒に先手でここに引かれては持たない。黒は23、25と波状攻撃を仕掛けてくる。こういう時はあえて変な防ぎはせず、素直に止める手から考えた方がいい。とは言え、白30、32は甘かったようである。黒は33から勝ちがあった。実戦は時間に追われた黒が33と打つたために、白36に石が入り、最後は四追いで

になつてしまった。A点が四々禁になることを確かめてほしい。最後は長谷川戦を。



白4は過去の記憶を思い出して打つたのだが、この手もまだ連珠世界に掲載されていないかった。ただ、黒5がダメというのには有名で知っていると思つていたが、知らなかったようだ。黒5を見た時に「あくA級落ちだな」と思ったが、舘君も負けたので、最後は決定戦に委ねられることになつた。さて、どっちがA級に？